



善教寺
ZENKYO-JI

寺報

2023年(令和5年)

No. 336

11月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁

高名なお坊さん(その23)

善導大師(西暦613年~681年)中国の唐の時代に活躍された高僧

善導大師は、浄土宗でも五祖のうちの3番目にあげられ、浄土真宗では七高僧の5番目にあげられて、阿弥陀如来の化身と尊敬されている高僧です。

中国浄土教の僧侶で「称名念佛」といわれる仏さまの名号、特に浄土教においては「南無阿弥陀仏」の名号を口に出して称える念佛を中心とした浄土思想を確立されました。

隋の時代613年に、泗州夏丘県(安徽省宿州市泗県)に生まれたとされており、子供の頃に見た西方浄土を描いた浄土変相図を見て深い感銘を受け、幼くして出家します。



出家後、各地を転々とした善導大師は641年に道綽禅師に師事し、「觀無量寿經」の教えを受けます。

645年に道綽禅師が亡くなった後は、長安の南の終南山悟真寺で厳しい修行を行い、その後は長安に出て、10万巻にも及ぶ阿弥陀経を写経して人々に与えたり、浄土の莊嚴を絵図にして教化するなど幅広い活動を行い、69歳で亡くなりました。

善導大師の絵像には、口から雲にのった阿弥陀仏を吐き出しているようなお姿で描かれているものがあります。これは法然上人が毎日念佛を称えていたところ、腰から下が金色に輝いた善導大師が現れて説法をしたという言い伝えを表現したもので、念佛を称える善導大師の口から阿弥陀さまが出てきたことが描かれております。



さて、この画像、『カープ坊主』なんですよ。見慣れた、『カープ坊や』ではありません。よく見て頂けると、赤い衣に紫の袈裟、手には念珠。カープ坊主は、平成二十五年の親鸞聖人七五〇回忌の記念事業で誕生しました。当時は、各メディアで取り上げられ、大きな話題になつたんです。

廣島にカープがあつて良かったと思う瞬間です。カープは広島の宝だと改めて感じます。

さて、この画像、『カープ坊主』なんですよ。見慣れた、『カープ坊や』ではありません。よく見て頂けると、赤い衣に紫の袈裟、手には念珠。カープ坊主は、平成二十五年の親鸞聖人七五〇回忌の記念事業で誕生しました。当時は、各メディアで取り上げられ、大き

住職レター

ご法事にお参りして、頼りになるのは、カープです。

読経後、お茶を頂きながら、世間話をします。女性の方

はコミニケーション上手な方が多く、会話が途切れることはありません。一方、男性の方は、話し下手な方が多い

です。なかには、家族の陰に隠れて、不機嫌そうな方もちらほら。でも決して、そのような方は、二機嫌斜めな

ではありません。なんせ、仏壇の前にお参りされる方は、心の清い

お方ばかりですか。不機嫌そうに見える年配の男性の方は、フレ

ンドリーに振舞うのが、あまり上手では無いかもしませんね。

こんな時には、魔法の言葉を使います。「昨日のカープ、よく勝ちましたね!」。シーズンオフなら、「来年のカープは期待できそうですよ」と。カープ好きな方が多いので、この魔法の言葉を伝えると、

不機嫌そうな表情も一変します。その後は、カープの話題で盛り上がり、この方、こんなにお喋り好きだつたんだと感じることもしばしば。



ゆかりの寺シリーズ その26

北条氏康 ゆかりの寺

「金湯山早雲寺（臨済宗大徳寺派）」



北条氏康は、北条氏綱の嫡男として生まれました。氏康の父氏綱は、その父早雲庵宗瑞が相模国へ侵攻した際に得た、小田原城を本拠地として地盤を固めていきました。氏康は27歳という若さで家督を継ぎ、今川・武田との甲駿相三国同盟を結び関東最大勢力にまで拡大していました。

早雲寺は、戦国時代の大永元年（1521年）に、北条早雲の遺言を受けて、小田原城主・北条家2代目の北条氏綱が、京都・大徳寺の第83世・以天宗清を招いて創建した寺です。

天正18年（1590年）、小田原征伐において一時的に豊臣秀吉軍の本営が置かれるが、石垣山城が完成すると当寺を含む一帯は焼き払われた。その後は北条氏の庇護を失って荒廃したが



北条氏康像（県重文）
箱根町早雲寺蔵



北条五代の墓

「元旦会」（善教寺本堂）
一月一日（月）
午前七時～



*鐘楼堂にて除夜の鐘を撞きます。
午後十一時四十五分～

「除夜会」（善教寺鐘楼堂）
十二月三十一日（日）

*お接待当番 中郷地区
（広島市東区牛田安楽寺）

「報恩講」（善教寺本堂）
十二月二日（土）
午前十時～朝席
午後一時半～昼席
午後三時半 法要終了
講師 登世岡 浩雄師

門信徒祥月命日法要（善教寺本堂）
十一月十六日（木）午後一時半～
*毎月十六日に本堂において勤めております。

早雲寺本堂（北条家菩提寺）

焼失後の寛永4年（1627年）、僧・菊径宗存により再建。慶安元年（1648年）、3代將軍徳川家光から朱印状を与えられ復興した。500名を超える衆僧がいた関東随一大禅刹（禅寺）であったと言われます。

